

次世代技術検討ワーキング・グループの発足

技術研究開発委員会

わが国では、「資源小国」としての制約を克服するため、より次元の高い知識集約化を図った次世代産業の自主技術開発が積極的に展開されている。

中央電力協議会においても、この動向をふまえて、電気事業としての課題選定を行い、開発導入の見通しや取り組み方について検討している。

当社もこれらの動きに対応するため、このほど第30回技術研究開発委員会（56.12.7）において「次世代技術検討ワーキング・グループ」を次のとおり発足させ、現在活動している。

1. 設立の趣旨

次世代技術のうち昭和60年代に実用化、導入が予想されるものに関し、当社への有効性、影響度を考慮して、調査検討すべき課題を選定し、それぞれの課題について関連する情報の集約を行う。さらに技術導入による効果、開発実用化にあたっての問題点などに関する共通見解を固める。必要に応じ特定の次世代技術について開発方針ならびに当面の取り組み方などの基本姿勢を明確にするとともに、将来の技術開発進展に関する共通認識を深め、各部門が協力して研究の効率的推進を図ることを目的とする。

2. 構成および運営方法

構成は、環境部、企画部、情報システム部、総務部、営業部、配電部、系統運用部、工務運営部、工務計画部、電子通信部、水力部、火力運営部、原子力運営部、総合技術研究所とし、主査は、総合技研、犬飼次長、副主査は企画部、志賀次長が選任され、以下の4部会を設けて、昭和58年3月を目途に検討を行うこととしている。

(1) 光応用技術部会

急速な進歩がある光ファイバ利用、半導体レーザー、光IC技術、ビデオディスク、光情報伝送技術、光画像処理プロセッサなどの光応用技術の現状と開発動向を調査し、電気事業への適用について検討する。

(2) ロボット技術部会

産業用ロボットが有力な生産技術ツールとして急速に普及しているが、若年労働者の不足、高学歴化、高齢化社会による労働需給、就業構造の変化など経済社会環境の変化傾向を考慮して、電気事業への導入について調査検討する。

(3) 新材料応用部会

電子技術やエネルギー技術の発展には、常に新しい材料の開発が必要である。特に新しい機能やすぐれた特性を持った材料、厳しい環境下でも安定である材料の開発が重要である。そこで、ニューセラミックス、アモルファス、複合材料などの新材料に関して、電気事業への適用可能性ならびに取り組み方などについて調査検討する。

(4) センサ適用部会

これまでのセンサは視覚、聴覚、触覚の代用をさせるものと、高温、高圧などの計測のために使用されるものが大半であったが、今後は、視覚、聴覚、触覚機能の進歩とともに、臭覚、味覚および人間の五感では判別できないものを検出するものが開発されるものと思われる。そこで、センサ技術の現状と将来動向を調査し、電気事業への適用について検討する。

3. 調査検討スケジュール

検討期間 昭和57年2月～58年3月	
57/2～57/9	57/10～58/3
技術開発の現状と動向に関して、技術の概要、開発動向、期待される効果ならびに実用化上の課題などについて調査検討する。	当社への有効性、影響度を考慮して、特定の次世代技術について、開発導入の必要性、実用化導入上の課題および今後の取組み方について、調査検討する。

(総合技研・研究管理課)